

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ

数値目標の設定で着実なサステナブルファイナンスを実施

三菱UFJフィナンシャル・グループ (MUFG) は、日本最大かつ世界最大級の日本のメガバンクであり、貸出金残高は106兆2,748億円、預金残高は183兆1,741億円にのぼる (2020年第3四半期業績)。

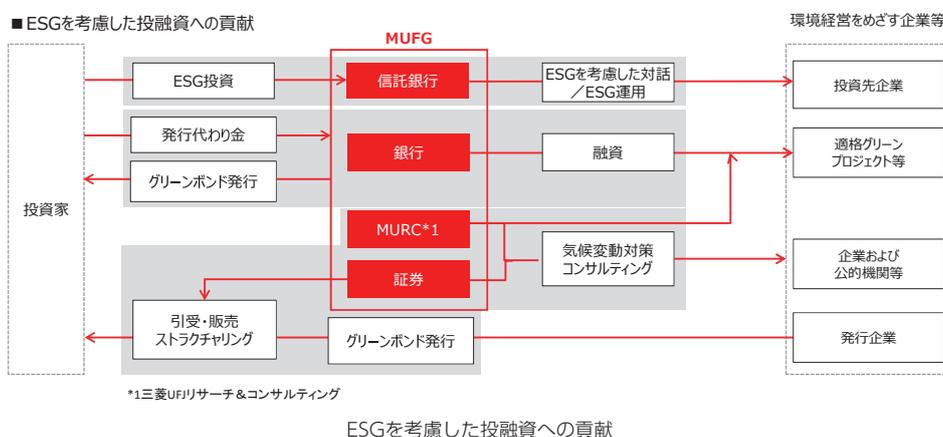
MUFGは、グループ全体として様々なESG課題に取り組んでいる。その大きな特徴の一つとして、サステナブルファイナンスに関する数値目標の設定があげられる。MUFGは2019年5月に、持続可能な社会の実現及びSDGs達成に貢献するため、2019年度から2030年度までに累計20兆円のサステナブルファイナンスの実施を目指すという数値目標をうち立てた。このうち8兆円で環境分野でのファイナンスが予定されており、既に再生可能エネルギー分野で積極的に展開されている。MUFGの同分野におけるファイナンスアレンジの実績は、2018年は3,940百万米ドルであり、2016年から2018年まで3年連続で世界第一位を獲得している (再エネ事業に関連したファイナンスリードアレンジのリーグテーブル³に基づく実績)。

一方、ネガティブな影響への対策も進みつつある。MUFGでは環境・社会配慮を実現するための枠組みである「MUFG環境・社会ポリシーフレームワーク」を2019年5月に改定し、炭素集約度が高い石炭などについて新たな方針を打ち出した。その内容とは、第一に、新設の石炭火力発電所へのファイナンスは原則実行しないこと。第二に、「ファイナンスに関して特に留意する事業」の中に、石炭火力発電、クラスター弾製造に加え、森林、パーム油、鉱業 (石炭) を新たに追加したことである。

MUFGの主要子会社である三菱UFJ銀行では、2019年11月末に日本の銀行として初めて、サステナビリティ・リンク・ローンによるシンジケーションを国内で成約した。同

ローンは、借り手のCSR戦略に規定されているサステナビリティ目標 (サステナビリティ・パフォーマンスターゲット) と連携したサステナビリティ目標を設定し、金利などの貸付条件と目標に対する借り手のパフォーマンスを連動させることで、目標達成への動機付けを与える仕組みである。サステナビリティ・リンク・ローンは、低金利政策の状況下、金融機関が借り手との積極的な対話の枠組みの一つとして活用されていくことが想定される。同年3月には、資金使途を「グリーン」に限定したグリーンローンのシンジケーションも2件成約している。

三菱UFJ銀行では、ESGの中の環境 (E) と社会 (S) に取り組むにあたって、SDGsなどから関連課題を整理し、優先的に取り組むべき環境社会課題 (ES課題) を特定している。具体的には、①少子高齢化、②産業育成と雇用創出、③社会インフラ整備・街づくり、④地球温暖化・気候変動、⑤金融イノベーション、⑥働き方改革、⑦複数の領域に跨る環境・社会課題、の7つである。これらの課題を含めたESGに取り組むため、2019年8月に、サステナブルビジネスに横断的に取り組む専門組織としてサステナブルビジネス室を新設した。同室では、必要とされる環境・社会課題に向けたリスク管理の高度化、ESG動向を踏まえたローン商品の開発や出資の検討などを含む、新たな金融ソリューションを提案・提供している。MUFGでは、こうした取組みを着実に実施し、経営ビジョンである持続的な成長の実現に邁進している。



³ リーグテーブルとは、メディア等が発表する、投資銀行などの引き受け業者の引受実績のランキング表を指す。